

## 校長式辞

本日、ここに商船学科 40 名、情報機械システム工学科 80 名、情報機械システム工学科三年次編入生の留学生 1 名、情報機械システム工学科四年次編入生 1 名の合計 122 名の新入生を迎え、さらに専攻科生産システム工学専攻に 9 名の進学者を迎えて、131 名の令和 4 年度の入学式を挙行できますことは、教職員ならびに在校生、さらには同窓生一同にとって大きな喜びです。

会場の皆さん、またオンラインで御覧の保護者の皆様、付き添っておいでの皆様、誠にありがとうございます。

皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校（鳥羽商船高専）は、長い歴史のある学校で、令和 7 年(2025 年)には、校祖近藤真琴翁が本校の母体となる航海測量習練所を東京都港区に創基してから 150 周年の記念すべき年となります。卒業生・修了生は、令和 4 年 3 月で 7,796 名を数え、海運・海事、情報システム、機械制御をはじめ我が国の産業界に広く人材を輩出しております。

高等専門学校（高専）は実践的・創造的技術者を養成することを目的とした大学、短期大学と同様の高等教育機関です。在学中には大学受験もなく、勉学はもとより、各種競技会やスポーツ大会に打ち込むことができ、豊かな人間形成に繋がります。

この場には、礼儀をわきまえ、他人を思いやる心を持った人、船や海に興味がある人、ものづくりに興味がある人、エンジニアや科学者を目指す人、夢に向かって進もうとする人、積極的なコミュニケーションをすることで、国際社会で活躍したい人が集まっています。

文化功労者で文化勲章を受賞された瀬戸内寂聴さんは、「自分一人じゃ生きられないことを知りました。」と生前おっしゃっています。人はお互いの支えがなければ生きられません。私たち人間には、それぞれ個性があります。日頃のクラスにおいても、それぞれの得意なところを互いに認め、理解し助け合ってください。クラスメートと同じ目標を持ち、それに迫る努力を一緒にして、得られた成果をともに喜ぶという、楽しい気持ちの良いクラスを創っていくことも、世界平和を構築することも、この考え方が基本となっています。これは、コロナウイルスと戦っていくうえでも、将来の仕事にも、大事なことです。

もうひとつ、みなさんは、自分自身の将来の目標、すなわち「志」をたて、ぶれない・諦めしないで「志」に向かって努力してください。学年が進むとともに「志」がだんだん具体的になっていくように強く希望します。

学生寮に入る皆さんにお願いをします。高専の寮は、希望によって一定の審査のうえ入寮できる任意寮制で「教育寮」として運営されています。寮は昼間の授業やクラブ活動とは違って寝食を共にする共同の生活の場です。一緒に生活する先輩や後輩が寮の場にいるという安心のもと、楽しくかつ実りある寮生活を送るため、大切なことは、学寮担当の副校長先生ほか教職員や世話係の上級生の話をよく聞いて、寮のルールを守り、考え、そして互いに協力する。寮生活の経験が、一生の宝物になるか否かはこの一点にかかっています。

結びになりますが、みなさんはこれからいろいろな新しい体験を重ねていきます。困ったら、悩んだら、遠慮なく、担任の先生、学生課の職員の方々に相談してください。

保護者各位ほか本日入学学生と本校においでになりました皆様におかれましては、本校の教育にご理解をいただき、お力添え、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。高専は、保護者各位、学生諸賢と一体となって、地域や産業界との連携のもと諸活動に取り組んで参ります。以上を式辞といたします。

令和4年4月6日

独立行政法人国立高等専門学校機構

鳥羽商船高等専門学校長 和泉 充